

社会福祉法人 京都光彩の会

光彩だより

令和6年7月号

今月のもくじ



ご寄稿いただきました！第2弾

「振り返って…かわりの中で教えていただいたこと」



法人事務所 紹介



後援会・ご寄付のお礼



地域交流

ミレニアムライオンズクラブ 高瀬川清掃活動報告

3月17日、ミレニアムライオンズクラブの高瀬川清掃に参加させていただきました(法人全体で19名参加)。今回は、先斗町を中心に御池通までの作業に取り組みました。

作業後、ミレニアムライオンズクラブの方から、イワシの土佐煮をお土産として頂戴しました。いつもながら、細やかなお心遣いに感謝致します。



巻頭言

「かれん工房と西山高原工作所の発展的統合」

京都光彩の会の名付け親は、家族会会長だった木村桂三さんです。空海や最澄が遣唐使一行として唐に学んだ頃、都の長安に杜牧(とぼく)という詩人がおり、「雲」という詩を書きました。拙訳すると、「一日中うつとりと雲に見とれていた。夕陽に映えるひとひらの雲がとても可愛い。晴れわたった空のどこからこの雲はやってきたのだろう。」という詩です。その中の、「可憐光彩一片玉」から、可憐↓かれん↓家連へと連想を巡らせ、家族と当事者の希望となる福祉サービス事業が寛やか光に包まれるようにと願って、木村さんは命名されました。「ワークステーションかれん工房」も同様の想いが込められています。かれん工房は就労継続支援A型を展開したこともあり、地域の私たちとも協働し、常にチャレンジ精神を発揮して、今日に続く斎藤夕子さん中心の運営に至っています。これまでの、上村さんはじめ戸田さん、中島さん、佐々木さんらの労を多としたいと思います。

一方、「西山高原工作所」は、京都成章高校から曲がりくねった山道を二キロ登り、山上に開けた西山高原アトリ工村の一角に、石神さんの発案で私を運営委員長にし共同作業所として誕生しました。冬は道が凍って登れませんが、廣瀬幸二郎さんが大変な苦勞をされました。不便さと小規模通所授産施設移行要件不適格ということがあつて、五年程で現在地に引っ越し、当法人に統合しました。廣瀬さん、関口さん、松井さん、竹内さんがとても丁寧にご利用者に接しておられました。

この歴史も文化も違う二つの事業所が、今年度さまざまな事情で統合することとなりました。利用者にとっても法人にとっても試練ですが、両者の強みを活かせるようにみなさんと力を合わせたいと思います。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

ご寄稿いただきました！ 第2弾！

「振り返って…かわりの中で教えていただいたこと」



瀬尾クリニック

巖 弥生子さん

今年四月、精神保健福祉法の改正がありました。思い返せば、私が精神科病院に就職した当初は精神保健法の時代でした。法律についても思うところはたくさんありますが、ここでは少し昔話をしたいと思います。

私が初任者の頃、当時は精神障害者が受けられる福祉サービスは殆どなかったと言っても過言ではありませんでした。そのような中四十年近く入院しておられたAさんという方の退院支援にかかわらせていただいたことがありました。この方とのかかわりは、私の原点であり、たくさんのエピソードと多くの示唆をいただきました。退院支援を始めたとき、五代のAさんは知的障害と統合失調症、難病も患っておられました。十代後半に入院して以来、退院したことがなく、年に数回、実家に外泊をして過ごしておられました。長年の主治医が退職したことを機に、新しい主治医のもと、精神症状のほとんどなかったAさんの退院支援に

取り組むこととなりました。当初、退院したいですか？と聞けば、「退院なんかしたくない。」と返事が返ってきました。しかし、何かしてみたいことありませんか？と聞くと、「いっぺんいいから、外来で薬もらってみたいんや。」とおっしゃいました。これがきっかけで始めた退院支援でした。

Aさんの退院支援は当初、ご家族のもとへと考えていましたが、紆余曲折あつて、結局、アパートでの独り暮らしを目指しての退院が目標となりました。支援が進んでいく中で、個室を使って一人で寝る練習、鍵を開ける練習など様々な方法をとりましたが、ついにアパートを借りて初めて外泊することになりました。しかし、この一歩がなかなか踏み出せずAさんも周りも行き詰まっていました。そこで、病棟の主任と私が交代でAさんの新しいアパートに泊まりに行きました。とにかくアパートで泊まることを体験してもらい、怖くないのだとわかってもらうには、だれかが一緒に泊まる必要でした。現在ならば利用できるサービスもあったでしょうが、当時、そのような資源はありませんでしたから、今、私らが行かな！という感じでした。サービスの質や量の平等性や均一性といったことがよく言われます。もちろん、このことも大事なことです。『今、この人と私だからできること、し

なくてはならないこと』『here and now』を大切にして、タイミングを逃さないということもとても重要なことだと教えられました。

最初のアパートの大家さんには病気のことは言わずに入居しましたが、真面目で優しいAさんを、いつの間にか障害の部分も含めて、“アパート住人の一人”として接しておられたと思います。また、日中活動の場を確保するため、Aさんのアパート近くを歩きまわり、小さなお店の短時間の清掃の仕事の張り紙を見つけました。最初は戸惑っておられた店主も、長い入院生活で習得したAさんの清掃の能力に目を見張り、数日のお試し期間を経てアルバイトとして雇ってくださいました。最初は私もついて行きましたが、その内、一人で行けるようになり、清掃が終わるとお茶とお菓子をいただいて店主と楽しくおしゃべりをして帰宅するようになりました。また、銀行等のATMを使うことのできないAさんは、持ち前の笑顔とコミュニケーションで、窓口のスタッフと良好な関係を築き、出金用紙の記入を手伝ってもらったことができました。食事についても、アパート近くのスーパーでどのような総菜が売っているのか、また、一人で入ることのできる食堂はどこかをリサーチし、一緒に行って買い物をする、ご飯を食べ、お店の人と顔なじみになり、Aさん

が困った時に助けてもらえるように関係
を築いていきました。今ならば、グルー
プホーム、デイケア、就労支援施設、訪
問介護、自立支援事業等々、すぐにサー
ビスが組まれたと思いますが、あえて言
うならば、『フル活用すべきは、地域に
ある当り前の資源』ということもAさん
に教えていただいた大切なことだと思っ
ています。

まず障害ありきではなく、Aさんとい
う一人の人の魅力に引き付けられ、周り
の人が自然と手を貸す・・・このような姿
があったように思います。もちろん、少
しのお膳立てが必要でしたし、たくさん
の困難にも直面しましたが、ここではあ
えて、地域で生活するAさんを地域の人
たちが当たり前にサポートしてくださっ
ていたことに言及したいと思います。

昔は良かったなどとは全く思っていま
せんし、今の制度やサービスが充足して
いるとも思いません。もっと多くの選択
肢や柔軟に活用できる仕組みが必要だと
痛感する日々でもあります。しかし、少
なからず使えるサービスが選べるよう
になった中で、支援する私たちが、今ある
サービスをパッケージングするだけのよ
うな安易な支援に陥っていないかを見直
す必要があるのではないかと思うので
す。

その方の持てる力と地域の持てる力を
コラボさせフル活用するという視点が、

個別の支援の中でも大切ではないか、当
事者の方の人生や暮らしがより豊かなも
のになると同時に地域の力も高まるので
はないかと思うのです。果たしてそのよ
うな実践ができているのか、これは長ら
く現場にいる私自身への問いかけでもあ
ります。仕組みやマニュアルにとらわれ
た支援に終始していないか、今一度、振
り返って見る必要があるように思ってい
ます。

※事例は、個人を特定する情報を極力
削除または再構成したものです。

法人事務所が移転しました！

京都市朱雀工房・支援センターなごやか・なごやかサロン

COCO・てらす
正面玄関



事業所のパンフレットや
光彩だよりはこちらで
配布しています。

・朱雀工房
・支援センターなごやか
・なごやかサロン
事務所受付

なごやかサロン・
朱雀工房 入口



施設紹介



静養室



面接室



多目的室



朱雀工房 作業室
なごやかサロン

後援会のお礼

京都光彩の会では、『精神障がいのある人たちが、ふつうの市民として、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に、各事業の運営や計画実施を行っていききたいと思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進して参りたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も随時承っておりますので、なにとぞ協力のほどよろしくお願いいたします。

ご寄付のお礼

この度、新施設移転のための特別ご寄付にご協力いただき誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は、新施設への移転費用の一部や今後の施設運営に活かしていきたいと思っています。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

後援会長 岩崎 隆二

ご寄付をいただいた方

中川 慶子様



利用者大募集!!

就労 移行支援
就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所では、上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

田中 稔一（支援センター「なごやか」）
植田 真由（支援センター「なごやか」）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
佐々木 瞳（ワークステーションかれん工房）
兵井 貴人（西山高原工作所）
松岡 芽以（グループホーム 賀陽・山ノ内・光）

編集後記

光彩だよりをご覧いただきありがとうございます。いかがだったでしょうか？

私事ですが、この法人に入職して一年が経ちました。一年目の健康診断、見事に引っかかり再検査です、あらやだ。しかし再検査に行くと、DRに「良すぎて健康診断に引っかかりましたね」「理想的なコレステロール値」と有難い言葉をいただき、ワンコインで安心を買ってきました。良すぎて引っかかるなんてこともあるんですね。

そんな、私をはじめ一部の職員とメンバーさんの食生活を支えていたかれん工房の配食事業が三月末で終了しました。自炊だと中々食べることがない野菜や魚料理。メンバーさんの中には配食で出たメニューを家庭でつくられた方も。少しずつ変わって行く環境の中でも、前向きにメンバーさんを見て、たくましさを感じています。あの手こねハンバー

グ、もう一回食べたいなあ。

七月号では、前回から引き続き、京都光彩の会と繋がりのある外部の方に記事を依頼いたしました。第二回は瀬尾クリニックのソーシャルワーカー厳さんにご執筆いただきました。お忙しい中、素敵な原稿を有難うございます。

京都光彩の会事業所の引越に伴い、移転した新しい朱雀工房、なかやサロンの設備をご紹介させていただきます。COCO・てらすには様々な施設が入っており、この度京都光彩の会も入居となりました。これから人とのつながりを大切に、つながり続けることができるように励みたいと思います。

今年度も京都光彩の会と光彩だよりをよろしくお願いいたします。
(佐々木)

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai, Inc

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の20 COCO・てらす 4F

TEL : 075-323-3201 FAX : 075-323-3220
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
発行責任者: 中條 了
印刷: 西山高原工作所